

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100397		
法人名	医療法人好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂山根		
所在地	広島県広島市東区戸坂山根1-1-19 (電話) 082-220-2050		
自己評価作成日	2013年11月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100397-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年12月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「その人らしい生活」を支援するということを1番の目標とし、生活づくり10か条を掲げ、生活暦を大切にしている。「自立支援」を常に意識し、食事、入浴、排泄において、「座る」ことを重視し介護にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、医療法人を母体とし、介護と医療の緊密な連携が構築されている。「生活づくり10か条」を介護の基本とし、事業所としての年間事業計画を立て、目標の実現に向けて全職員で取り組んでいる。今年度目標として、①「個別ケアの取り組み」家族と連携し利用者一人ひとりのケア計画を作り行動し、福井県への里帰りや自宅への外出・外泊をサポートしている。②「地域との関わりを深める」町内会の行事に利用者と職員が積極的に参加し、老人会と合同での「ソーメン流し」や地域の福祉施設などが協力して開催した「へさか福祉のひろば」には地域の子供や住民、ボランティア、家族など多くの方々が参加し、交流している。また、日常的に近隣の喫茶店や買い物に出かけるなど馴染みの関係が出来ている。さらに、職員からの提案に家族が賛成し、日々の暮らしの中にアロマを活用した取り組みを行い、利用者や家族に喜ばれている。職員は、法人の理念や介護の方針をよく理解し、利用者に温かく接し支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念と「生活づくり10か条」を基本とし、日々利用者様の「その人らしい生活」とは何かを考え実践している。	法人の理念と好縁会「生活づくり10か条」を基に事業方針を作成し、目標達成に向けて、日々、確認・共有しながら実践している。また、全職員が職員個人の目標と実行計画を記したチャレンジシートを作成して実践しており、管理者は年2回の面接・振り返りを行い、理念の共有と達成状況を評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の買物、散髪、喫茶等利用者様が地域に顔を出す機会を多く設けるようにしている。町内会長と連携し地域の行事に参加し地域の方々と交流出来る機会を設けるようにしている。	日常的に近隣のスーパーへの買い物や理髪・美容店、喫茶店などに出かけ、地域の人々と挨拶を交わしたり気軽に話ができる関係が出来ている。地域の夏祭りやとんどなどの町内行事に利用者職員が積極的に参加し、また、老人会と合同での「ソーメン流し」や地域の福祉関係者で開催する「へさか福祉のひろば」には、地域の子供や住民、ボランティア、家族、利用者など多くの方が参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知証介護アドバイザーの資格を有する介護支援専門員の下、地域からの相談や見学に誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では入居者様、ご家族、地域の他施設、地域包括支援センター等の方々と意見交換、情報交換を密に行っている。意見交換、情報交換を基にサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、地域住民代表、地域包括支援センター長・職員、地域の福祉施設の代表、家族代表、利用者が参加し、活発な意見交換が行われている。ゲストで消防署職員を招き、「地域と合同で防災訓練をするのもいいのでは」と助言や指導を頂く事もある。そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	認知証介護アドバイザーの資格を有する職員や法人介護本部から外部に向けて、介護技術の講習や研修を積極的に行っている。	地域包括支援センター長が運営推進会議に出席し、日頃から相談したりアドバイスを頂くなど協力関係が築かれている。また、市や区からの要請を受け、認知症介護に関係する研修会へ認知症介護アドバイザーの資格を有する職員を派遣している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者様が容易に全ての扉の鍵を開けることが出来る状況にある。どんなに不穏な状況でも閉じ込めることは無く納得されるまで外を歩いたり、マンツーマンで介護を行っている。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて、法人全体・事業所内研修を定期的に行っており、全職員は理解・共有して実践している。また、新入職員には先輩職員が日常的に指導・助言をしている。事業所内の扉は施錠せず、利用者が外出を希望する際は必ず職員が同行している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修において、虐待防止の周知徹底を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、成年後見制度を利用されている利用者様がいますので今後も制度の理解を深める勉強会を行う等したい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約書を提示し、契約の締結、解約、改定について具体的に説明している。入居後もご家族の不安等についてはリーダー、各担当者を中心に誠意を持って対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様、ご家族の意見や要望を日常の面会時や電話連絡の際に伺うようにしている。また、個別の外出や外泊等の要望にも出来る限り協力、対応している。</p>	<p>家族の面会時や年2回開催する家族会、運営推進会議など機会ある事に利用者や家族から意見や要望を聴き、事業所の運営に反映させている。遠方にいる家族からの要望で利用者の生活記録をFAXで届けたり、また、家族会でアロマを使用しているハンドマッサージなどを、利用者の暮らしに取り入れる事を希望され、日常的にアロマを使用しているケアが行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定例の全体会議、毎月のリーダー会議で管理者、リーダー、現場職員との意見交換を行い、運営に反映するように努めている。</p>	<p>毎月開催する職員全体会議で職員と意見交換を行っている。職員からの提案で掃除の仕方や情報の閲覧方法など業務内容の見直しを行った。また、アロマを活用したセラピーの取り組みの提案に全職員が賛成し、現在、取り組んでいる。管理者は日常的に職員と何でも言える関係を作っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人内で評価基準が明確にあり職員個々の努力により給与水準や役職等向上することが出来るようになっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内には教育研修部があり、職員それぞれの状況に応じた研修が数多く受けられるようになっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携を密に行い、情報交換等連携を図っている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>初回面接時には、ご本人の不安や要望を聞くことに重点を置き、信頼関係を構築するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービスの利用開始前から、ご家族の困っていること、不安、要望をしっかりと聞きし、信頼関係を構築出来るように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>電話や面談等の相談時には、ご本人やご家族のニーズを把握し、問題点を整理した上でその後のサービスの提案を行っている。また、画一的にグループホームを勧めるのではなく、他のサービスの提案・紹介も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「共にある」という考えを大切にし、一緒に行えることは一緒にする。どんなときでも寄り添うようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>グループホームに入居したら在宅へは戻らないという考えを無くし、常に家族との関係を大切に、家族との外泊や外出を勧めている。外泊・外出時には車椅子の準備や注意点を記入したシートを作成しお渡しする等出来る限りの協力を行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者の知人・友人の来所時には、職員は暖かく出迎え、気兼ね無く訪問していただけるように努めている。</p>	<p>利用者の知人や友人、親戚の方が面会に来られた際には、ゆっくりと話しが出来る雰囲気づくりに配慮している。また、近隣の美容院や喫茶店に利用者とかけるなど職員は馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事席やレクリエーションの席配置等利用者様の関係に配慮し設定している。職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに行え関係作りが円滑に行えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでに事例は無いが、今後在宅復帰される利用者様がいたら、安心して生活が出来るようにフォローできる環境を整えたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	特に食事（嗜好品）や衣類においてご本人の好きなものを一緒に購入しに行き対応している。	利用者一人ひとりの生活歴を紐解きながら思いや暮らし方の希望を聴き「家族と一緒に遠方の地の里帰り」を家族と連携し実現させている。また、意志疎通が困難な場合は家族に聞いたり担当者が日々の暮らしの中で、思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各利用者様に担当の職員を配置し、一人ひとりの生活歴をまとめたライフストーリーシートを作成し、全職員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	訪問看護と連携し、心身の状況をしっかりと把握している。法人で状態レベルのシートを活用しており、有する力の現状把握、共有に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングでは担当職員が計画を見直し、その後全職員で意見を出し合い本人様、ご家族とのカンファレンスに望んでいる。また、モニタリングの結果必要であればプランを見直し新しい取り組みを導入するよう努めている。</p>	<p>介護計画作成に当たっては、担当職員、家族、利用者、介護支援専門員が充分意見を出し合い、互いに理解・納得の上で作成している。モニタリングについても全職員でしっかり検討し、次回の介護計画作成に活かされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の状況を生活状況記録、個別記録に記載し全職員が毎日確認し利用者様の状態を把握し情報の共有に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医師・看護師との連携を密に行い、他職種からの意見も必要に応じて取り入れ、サービスに反映している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺の医療・消防・警察との連携を図り、安全で快適に生活できるようにしている。また、近くのタクシー会社や散髪屋等にもグループホームを知っていただいている緊急時には支援していただける関係を構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時にかかりつけの病院・医師の情報を伺いスムーズな受診が行えるようにしている。</p>	<p>週1回の主治医の往診や訪問看護、年1回の定期受診などを活用しながら適切な医療支援が行われている。また、緊急時や夜間でも、職員が医師に連絡し、適切な対応が取れる関係がつけられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	法人内の担当訪問看護師と連携し24時間電話連絡が出来、急変時等は適切な看護や受診が受けられる態勢が出来ている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時は医師からの紹介状だけで無く介護職員が付き添い日頃の情報や急変時の情報を説明している。また、入院中も面会回数を多くしている。退院時は管理者が病院側と退院時カンファレンスを行いスムーズな退院につなげている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	グループホームとして終末期ケアを行う方針であり、入居時に本人様・ご家族から意向を伺っている。主治医の判断で終末期ケアへの移行が必要となった場合は治療方針・ケアの方針を本人様・ご家族・医師を交えて話し合い終末期ケアへ臨んでいる。	事業所では看取り介護を実践している。入居時、事業所として終末期の対応や方針を説明して覚書を取り交わしており、入居者が重度化した場合には、事業所での対応について説明を行い、看取りを希望された方と契約し、家族・医師・事業所と共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	年1回法人内で消防署に協力していただき救命講習を開催し参加している。法人内の医療・看護より指導・助言を受けている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回消防署に依頼し避難訓練を行っている。消防訓練・避難訓練を行っている。また、消防署の方より水害や地震に関しても指導・助言を受けている。	定期的に避難訓練を行っており、夜間を想定した訓練も行っている。また、マニュアルを基に防災教育も行っている。運営推進会議に消防署員を招き初期消化や地域住民との連携についての指導・助言を頂き、地域住民との協力体制の構築に取り組まれている。	地域との協力体制の構築に向けて積極的に取り組まれているが、運営推進会議の意見にもあった様に町内会や近隣との連携が必要であり地域住民参加のもと防災訓練をして頂きたい。また、法人のグループホームとの連携も一層強化して頂きたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の尊厳を傷つけないように言葉かけやトイレの対応等十分に配慮している。	職員は利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの重視については、十分に理解し対応をしている。また、日々の生活や定例会の中で職員間で確認・研鑽をしている。個人情報の取り扱いについても守秘義務を理解し、責任ある管理・取り扱いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り本人様の思いや希望を引き出すように努め、可能な限り本人様の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外へ出たい利用者様がいれば外出やドライブへ出かけたり、食事の時間も本人様の食べたい時間に出来る限り合やす等希望にそえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服や靴、化粧品等本人様と買物へ行き購入している。朝の整容は環境を設定し、出来ない方は支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの好みを把握出来るよう聞き取りを行いメニューに反映している。おかゆやミキサー食の方でもおやつ等で好きなもののおいしい形で食べれるよう配慮している。食事時間は全て職員も一緒に食べている。	利用者の嗜好を伺いながら、献立づくりをしている。食材は近隣のスーパーに利用者と職員で出かけ購入しており、食事の準備・料理・後片付けも利用者と職員と一緒に楽しみながら行っている。また、餃子パーティーや、誕生日に行きつけの店で外食したり、食事を楽しむ工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分はそれぞれの利用者様に合った形態で提供している。1日に水分摂取量は1500CCを目標とし認知証のケアの基本を徹底している。食事量、水分摂取量は個別に記録している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、必ず全利用者様の口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用しており、必要な利用者様は往診により口腔内のケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中、夜間を通しオムツは使用していない。それぞれの利用者様の排泄パターンに応じたトイレ誘導を行い、出来る限り失敗無くトイレで排泄が出来るよう支援している。環境面も整っている。</p>	<p>「排泄は自分でしたいもの」と排泄の自立については、法人グループ全体で取り組んでおり、事業所としても一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。また、トイレの手すりなどハード面にも工夫をし、障害が進んでも、できるだけトイレで排泄するように支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>基本である食事、水分、運動に関して職員全員が理解し取り組んでいる。特に運動面では毎日遊びリテーションを行い排便を促す運動を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>最後まで人間らしい入浴が出来るように，環境を整えている。環境整備と職員の介護技術により全ての利用者様が入浴を楽しめている。入浴の時間やタイミングは本人様の希望に柔軟に対応している。</p>	<p>週に2～3回の入浴で、家庭での入浴時間に近づけるように配慮し、入浴は午後や夕方に行っているが、利用者の希望や体調に応じて柔軟に対応している。湯船にしっかり浸かってゆっくりと入浴を楽しめるように、福祉用具を整えたり、同性介助の希望にも対応し、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	リビングにソファを多く設置し、休みたときに楽な姿勢で休める環境を整えている。夜間しっかりと休めるように日中メリハリのある生活を心がけている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	各利用者の服薬リストを担当職員が作成し、確認出来るように一覧にしてファイリングしている。往診時に主治医へ日常の様子について報告、相談している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	嗜好品については本人様、ご家族の希望に添い提供している。掃除、洗濯、料理等役割を持って生活されている。本人様の希望に添い、外出、ドライブ等気分転換を随時行っている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	日常的な外出やドライブは本人様の希望に添い行っている。ご家族の希望があれば企画し職員付き添いにて遠出や祝い事等対応している。地域の行事にも町内会長と連携し参加している。	一歩でも外にできることを目標にし、日々の散歩や食材の買い物に出かけている。町内会行事にも地域の方や家族に協力頂き参加している。個別ケアにも力をいれており、本人の希望があれば、買い物や外食に職員が付き添い外出している。また、家族と連携し、外出や外泊計画を作り実行をしている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	現在、お金を持っている利用者様はいないが、要望があれば本人様・ご家族の同意の下、お金を持つことも可能である。その際は金銭管理張を作り管理する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望により事務所で電話の取次ぎを行っている。携帯電話を所持している利用者様もいる。携帯電話の使い方が分からない時には職員が支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには温度計・湿度計を設置し、管理している。各居室は使い慣れた家具等を持ってきていただき安心出来る環境づくりを行っている。	利用者一人ひとりの食事をする時の椅子が決まっている。その椅子は個々の体型に合わせた物となっており、だれもが「まず座る」ことを意識し、職員は支援し、テーブルも楽しく食事が出来るように工夫されている。また、居間に大きなソファを幾つか設置し、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースではテーブル席の他、ソファを用意し、一人になれたり他者と交流できる環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人様が自宅で使っていた慣れ親しんだ家具や品物を持ってきていただき使用している。写真や賞状を飾る等個別に対応している。	居室には利用者の好きな表札や自分の家の表札が掛けられている。仏壇やテレビなど利用者の使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれ、居心地よく過ごせる生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が出来るように数センチ単位で椅子を個別に設置し自立支援につなげている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名グループホームふれあい戸坂山根

作成日2014年1月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		災害対策について地域との協力体制 法人のグループとの連携の強化を図る。	町内会と連携し地域の防災訓練に参加する。災害時地域の方に協力して頂く事柄を明確にしておく。	町内会長と連携し防災訓練に参加できるようにする。町内会との防災協定を結ぶ。	6ヶ月
2			近隣のグループホームふれあい戸坂と災害時の協力体制方法を明確に決めておく	管理者同士が連携しグループホーム間の防災協定を結ぶ	1ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。